

定例フォーラムの計画

	開催時期	テーマ
第13回	5月15日	・基調講演 「迫る気候変動の危機に向けた地域の取り組みのこれから」 平田 仁子氏（Climate Integrate代表理事）
第14回	7月	・基調講演 「EV普及に係る最新動向」 ・パネルディスカッション 会員の自動車会社、充電器販売・設置会社、自治体、講師等に登壇いただき、 取組紹介や課題、展開戦略について議論する。
第15回	9月	・基調講演 「再エネ導入拡大に向けた技術動向」 ・パネルディスカッション 会員で再エネに係るサービスを提供する事業者、自治体、講師等に登壇いただき、 取組紹介や課題、展開戦略について議論する。
第16回	11月	・基調講演 「地域エネルギー事業会社の動向と求められる役割」 ・パネルディスカッション 松本平の地域エネルギー事業会社、講師等に登壇いただき、現在の取組状況及び 今後の展開について議論する。
第17回	2月	・基調講演 「脱炭素経営を如何に実現していくか」 脱炭素経営を促進するにあたり、ソフト面（地域内連携、社内合意の取り方、若手 職員の参画等）にフォーカスを当てた内容とする。 ・若手企画の活動報告会

- ・各回フリースタイルを設け、会員同士の交流促進を図る。
- ・定例フォーラムで動向把握、課題の洗い出しを行い、その後期間を空けずに同じ分野の課題別部会を開催することで、課題の深掘り（分類分け）を行い、課題別部会につながる内容とする。

課題別部会の計画

「座」マークが付いているものは、基本的に各分野の定例フォーラムを開催した後（概ね1か月以内）に実施することで連動させます。

「視」マークが付いているものは、受入先と調整でき次第開催いたします。

種類	テーマ
再エネ 第15回定F 「再エネ導入拡大に向けた技術動向」	太陽光発電設備に関する最新の技術動向 (座)
	P P Aによる太陽光発電設備の導入手法検討会 (座)
	ソーラーカーポートを活用した電力の施設間融通、B C P向上事例の視察 (視)
	地産地消エネルギーによる資源循環モデルの実証運用の視察 (視)
省エネ	既存建築の改修による省エネルギー化取組事例の視察 (視)
	Z E B建築の視察 (視)
	工場における省エネワークショップ (座 視)
モビリティ 第14回定F 「E V普及に係る最新動向」	松本平のE V普及戦略検討会 (視) → 松本平のE V普及に関心がある会員が集い、E V化の課題及び現状の整理を行ったうえで、必要に応じてE V導入コストシミュレーション、先進的に取り組む団体を招いた勉強会等、参加する会員のニーズに沿った活動を複数回実施し、1年間かけて松本平のE V普及戦略及び充電インフラの充実化戦略検討を行う。 (座)

- ・ 会員内で先進事例があれば、積極的に視察を行う。
- ・ 抱えている課題の解決に向けて技術及び先進事例を学び、会員同士で議論する。

若手職員向け企画の計画

● 令和7年度の企画趣旨

- ・ 若手職員が具体的なアクションを起こすための動機付け、知識習得の機会とする。
- ・ 基礎的な知識を習得できる内容をプログラムに含める。
- ・ 対話の時間を大切にする。
- ・ 昨年度希望が多かった視察を実施する。
- ・ 年間通して、参加者のネットワークを構築し、学びと議論を深めるなかで、何らかの成果物を作成する。

● 企画案

NO	日程	内容	趣旨・目的
1	6月	『脱炭素社会の実現に向けて何が必要か考えよう』 ・カードゲーム「2050カーボンニュートラル」	気候変動の現状を学び、様々な主体が関わり合って、脱炭素社会の目指すことの重要性を体験するカードゲームを実施し、基礎的な知識や考え方の習得の機会とする。
2	8月	『CNの分野で活躍する若手職員の声を聴こう』	現場で働く若手職員からお話をいただき、後半は参加者と講演者でグループワークを行うなかで、この分野の可能性や面白さを参加者が体感する機会とする。
3	10月	視察	脱炭素先行地域、EV自動運転バス、GHG排出量見える化等
4	12月	『事業の組み立て方を学ぼう』	事業の組み立てにおける、社内合意の取り方や若手が挑戦する際に必要なマインドを学ぶ機会とする。
5	2月	『学んだこと・感じたことを発信しよう』 ・活動報告会	定例フォーラムと同時開催し、MZCC会員向けに若手職員が報告を行い、若者が活躍できる環境づくりにつながる機会とする。

令和7年度予算

【収入】

(単位：円)

科目	R6予算額	R7予算額	摘要
1 会費	1,110,000	1,160,000	企業会員：102者×10,000円+130,000円（昨年度 未収納分） +10,000円（令和5年度 未納分）
2 繰越金	787,674	195,361	
3 雑収入	0	0	
収入合計	1,897,674	1,355,361	

【支出】

科目	R6予算額	R7予算額	摘要
1 運営費	1,800,000	1,050,000	会員専用SNS維持費 50,000円 定例フォーラム・課題別部会・若手職員向け企画 運営費（会場費、講師謝金） 1,000,000円
2 広報・啓発費	40,000	250,000	ウェブサイト維持費 120,000円 広告費 130,000円
3 事務消耗品費	20,000	20,000	
4 予備費	37,674	35,361	
支出合計	1,897,674	1,355,361	

令和7年度役員及びアドバイザー名簿

<役員>

会長	国立大学法人信州大学	副学長	林 靖人
副会長	松本ガス株式会社	取締役社長	清水 是昭
副会長	松本市	副市長	中野 嘉勝
監事	株式会社八十二銀行	常務執行役員 松本営業部長	上村 勝也
監事	松本信用金庫	常務理事 資金証券部長	青柳 栄一
運営委員	法政大学 国立大学法人信州大学	社会学部教授 グリーン社会共創機構特任教授	茅野 恒秀
運営委員	国立大学法人信州大学	名誉教授	高木 直樹
運営委員	松本市	環境・地域エネルギー課長	鈴木 博史
運営委員	松本商工会議所	総務部長	岩垂 学
運営委員	株式会社八十二銀行	営業渉外部調査役	藤澤 直人
運営委員	松本信用金庫	地域リレーション支援部長	遠藤 晃
運営委員	特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所	研究員	古屋 将太
運営委員	松本ガス株式会社	常務取締役	塩原 典幸
運営委員	東洋計器株式会社	取締役 環境システム事業本部長	二本松 敬文
運営委員	エア・ウォーター東日本株式会社	甲信越支社 経営戦略部長	山内 亮
運営委員	サンリン株式会社	営業本部電気事業部長	佐藤 隆俊
運営委員	株式会社いくさかてらす	電気主任技術者	田村 航太

運営委員	朝日村	建設環境課長	小林 秀樹
運営委員	安曇野市	市民生活部 ゼロカーボン推進課長	龍野 真一
運営委員	塩尻市	市民地域部 生活環境課長	塩原 敏也
運営委員	山形村	住民課長	村田 鋭太
運営委員	生坂村	村づくり推進室長	藤澤 友宏

<アドバイザー>

経済産業省 関東経済産業局 資源エネルギー環境部 カーボンニュートラル推進課	課長	白戸 恒彦
長野県 環境部 ゼロカーボン推進課	課長	平林 高広